

気仙沼市病院事業審議会  
令和5年度 第1回会議

会 議 録

令和5年6月1日開催

気仙沼市病院事業局

【出席者】（敬称略）

《委員（9人）》

藤 森 研 司（東北大学大学院医学系研究科 医療管理学分野 教授）  
森 田 潔（一般社団法人気仙沼市医師会 会長）  
木 村 伸 之（気仙沼・南三陸介護サービス法人連絡協議会 会長）  
大 森 美 和（にじのわ助産院 代表）  
土 谷 芳 和（宮城県保健福祉部医療政策課 医療政策専門監）  
野 上 慶 彦（宮城県気仙沼保健福祉事務所保健医療監・宮城県気仙沼保健所所長）  
赤 川 郁 夫（気仙沼市 副市長）  
横 田 憲 一（気仙沼市病院事業管理者兼気仙沼市立病院院長）  
齊 藤 稔 哲（気仙沼市病院事業局 気仙沼市立本吉病院院長）

《事務局》

大 友 浩 志（気仙沼市立病院 副院長）  
星 達 也（気仙沼市立病院 副院長）  
水 戸 恵美子（気仙沼市立病院 看護部長）  
小野寺 るみ子（気仙沼市立病院 総合患者支援センター副所長）  
島 山 久美子（気仙沼市立本吉病院 看護師長）  
菅 原 正 浩（経営管理部長）  
千 葉 淳（経営管理部 総務課長）  
小野寺 弘 明（経営管理部 医事課長）  
島 山 正 浩（経営管理部 経営企画課長兼附属看護専門学校事務長）  
熊 谷 岳 豊（経営管理部 経営企画課主幹兼経営企画係長）  
佐 藤 孝（経営管理部 経営企画課主幹）  
佐 藤 研（経営管理部 管理課長）

《傍聴者5人》

開会 午後6時

## 1 開会

○**司会（熊谷岳豊）** 審議会の開会に先立ち、委員の出席状況について報告する。委員総数9人のうち全員出席しており、気仙沼市病院事業審議会条例第7条第2項の規定による定足数を満たしている。

ただいまから令和5年度第1回気仙沼市病院事業審議会を開会する。

## 2 委員紹介

○**司会（熊谷岳豊）** 人事異動により委員が変更となっているので紹介する。前任の吹谷大祐委員の後任として4月1日付けで委嘱した宮城県医療政策課医療政策専門監の土谷芳和委員である。

○**土谷芳和委員** 4月に医療政策課に着任した土谷である。1年間よろしく願います。

○**司会（熊谷岳豊）** 併せて、次第裏面記載の事務局職員が出席しているのでよろしく願います。

## 3 挨拶

○**藤森研司会長** 新型コロナが5類に移行したが、終わったわけではなく、恐らく4、5年は流行の波があると思う。病院の体制はほぼ新型コロナ流行前に戻りつつあるが、患者が戻ってこないという厳しい状況にあり、補助金も終わるということで、いよいよ病院経営の真価が問われる。様々な工夫をしなければ病院として立ち行かなくなる厳しい時代になってきたと思う。本日は忌憚のない意見を頂戴したいと思う。よろしく願います。

○**司会（熊谷岳豊）** 審議に入る前に本日の会議資料を確認させていただきたい。予め各委員には「資料1 中間答申後に開催した各説明会の概要報告」、「資料2 気仙沼市病院事業経営強化プラン作成に向けて」、「諮問書の写し」を送付している。本日配付している資料は「次第」の他にもう一つあり、事前に配付した資料2に修正があったため、差替え後の資料2を改めて配付している。修正部分は4ページ目に2か所ある。1つ目は表の左から4列目の見出しで、当初の資料では「病院事業の方針」であったが、「病院事業の考え」に変更している。2つ目は「病院事業の考え」の「⑤在宅医療の市内全域展開」で「医師、看護師の育成を図りつつ」の後に、「在宅医療を提供している開業医との連携の下」を付け加えている。

それでは、次第4の報告に入らせていただく。これ以降は審議会条例第7条第2項の規定により藤森会長に議長をお願いする。

## 4 報告

○**藤森研司会長** それでは、次第に従い進める。報告事項について事務局からの説明をお願

いする。

**報告事項について** 事務局（畠山正浩）が、「資料1 中間答申後に開催した各説明会の概要報告」により説明。

- 藤森研司会長** ただ今の報告に関して、質問、意見等はないか。
- 木村伸之委員** 当方は、市内の業者約40社が加盟している南三陸介護サービス法人連絡協議会の会長を拝命しているが、その中に恐らく、本吉地区小規模法人連携事業協議会が、本吉地区で作られているものと認識している。旧気仙沼地区に存在する事業者に関しては心配しているところはないが、コロナ禍において当会が総会や管理者会議を開けなかった中で心配をかけたこと、市立病院に対して様々なマイナスの意見が上がったことについて大変申し訳ないと思っている。これから会員事業者に対して前向きな啓発活動を行って参るので、了承いただきたい。
- 大森美和委員** 様々な説明会で出た質問内容は、合併に対するの心配や不安要素が多かったようであるが、逆に、地域包括ケア病棟ができること等によって、期待されることや前向きな意見は出たか。
- 事務局（畠山正浩）** 医療再編については期待する声も当然あるにはあったが、説明会の中でというより、終わった後に話を受けたという形だった。

## 5 審議

- 藤森研司会長** それでは、審議事項の公立病院経営強化プランについて、事務局から説明をお願いします。

**審議事項** 事務局（畠山正浩）が、「資料2 気仙沼市病院事業経営強化プラン作成に向けて」により説明。

- 事務局（菅原正浩）** 説明について補足させていただく。4ページの3章4章の「今後果たしていくべき役割・機能」の「⑥気仙沼市の将来を見据えた医療介護連携のHUB機能」の説明を飛ばしていた。現状として、本吉病院は地域の介護事業所と患者情報を共有し、円滑な連携を図っているところである。病院事業としては、介護事業所との情報連携、患者情報を共有できる仕組みを整備していきたいと考えている。課題とすれば、ケアマネジャーの他に、急性期・回復期の受け皿となる施設系サービスとの情報連携が必要ということで、5ページの一番下の「気仙沼市の将来を見据えた医療介護連携のHUB機能」の欄の検討事項として、急性期の受け皿となる介護施設系サービスや地域のケアマネジャーとの連携強化を図るための手段・方法を考えていくという流れになる。なお、6ページの

5章の「医師・看護師等の確保と働き方改革」の論点の上から2段目にある「気仙沼市が独自で設けている「修学奨学金制度」「奨学金返済支援金」の活用」については、正しくは「気仙沼市が独自で設けている「修学奨学金制度」「奨学金返還支援金制度」の活用」である。大変申し訳ないが、修正をお願いする。

○藤森研司会長 本日の会議は、強化プランに盛り込む大枠について、委員全員から了解を得たいという主旨であるが、各委員の立場から見て、漏れている項目、方向性、検討項目に補足がないか確認いただき、自身に関わるところを中心に、建設的な意見をいただければと思う。

高齢者という意味では介護との関係が非常に大事になってくると思うが、木村委員いかがか。

○木村伸之委員 現在、我々民間の介護サービス事業者は、市立病院の総合患者支援センターに対して、個々の事業者で営業や情報提供を行っている。県のホームページにも載ってはいるが、コロナが終わった後で、IT化し空床情報等をオンタイムで見ることができる仕組みを作ることは恐らく簡単だと思う。また、回復期の利用者をどのようにして引き受けていくのかということに関しても、介護サービス事業の経営者達の知恵を拝借すれば解決できると思う。

○藤森研司会長 ご意見ありがたく頂戴した。病診連携、在宅は非常に大きな要になると思うが、是非、森田委員から意見をいただきたい。

○森田潔委員 経営強化プランということで、この通りに出来れば立派であるが、なかなか難しいと思う。2ページ目に記載されている「ポストアキュート」、「サブアキュート」に大変問題が出そうである。市立病院を退院した患者が、在宅、施設で増悪した場合にシームレスな受け入れが可能かどうか。木村委員が話された病院、施設等の空床の有無の情報共有については、西日本で結構実施されているが、施設、病院がある程度存在し、医師もいるということが前提になっている。

藤森会長もアドバイザーとして参加されている地域医療構想の調整会議の中で、2040年までのシミュレーションが出されている。現在、仙台医療圏に、気仙沼医療圏の20数%が紹介や入所でお世話になっている状況であるが、2040年になると、仙台医療圏でさえ医療介護従事者が少なくなり、受け入れが出来なくなる。医師、医療従事者、介護者不足も顕著になり、それは気仙沼に限らずどこもそのような状況になっていく。

市立病院は大変熱心にいろいろ取り組んでいるので、東北大学、東北医科薬科大学から医師派遣というのは非常に良いことであるが、それだけでも大変なところに、医師の働き方改革という問題が入ってくると、絵にかいた餅になりかねないと感じる。

在宅医療に関しては、もっと増やしたら良いのではないかという意見もあり、私も訪問診療をしているが、これは非常に時間がかかる。現在、水曜日の午後に5名の患者を訪問

しているが、2時間から2時間半かかっている。特別そこで何か処置をするというわけではなく、ほぼ移動時間である。経営的に在宅医療がすごく良いというわけではなく、手間と時間はかかるが、患者と家族には良いと思われるものであり、ある程度余裕があった場合の医療サービスの一つだと思う。必ずしも在宅医療が良いというわけではなく、患者によっては入院治療が必要な方や介護施設が良いという方もいる。在宅医療はあくまで選択肢の一つだと思う。

難問山積ではあるが、このプランは非常に良いプランだと思う。連携のための取組を一つ一つ積み重ねていくしかないのではないかと。来年の4月からすぐに実施しようとしてもなかなか難しいかと思う。

○**藤森研司会長** ご意見ありがたく頂戴した。続いて大森委員には、助産院の立場と市民の代表ということで、意見をいただきたい。

○**大森美和委員** 一番気になったのは、4ページの「①小児・周産期等の政策医療」についてであり、課題の欄にも出ているが、子どもが減っていく中、分娩数が増える見込みが低いと思うが、少なくなったからお産が出来なくなると、三陸道を使えば以前よりは近くはなったが、石巻日赤や大船渡病院に行くことになる。健診に行くことやお産が出来るかという点では、安心感が低くなると思う。安心して産み育てられない地域、病院がない地域となると、産む世代の人達は気仙沼から離れていってしまい、ますます人口が減少し、病院経営にも影響が出ると思う。分娩数が少なくても、市内でただ一つのお産ができる機能は、是非堅持していただきたいと思う。

また、森田委員も触れていたが、働き方改革について、人口減少で働く世代が減ると、医療職だけでなく介護等の働き手を日本中で取り合う状態になると思う。そうなった場合、気仙沼の病院で働いてもらうためには、お金の面で奨学金の制度があることも大事だが、就職後にキャリアアップしていく際の働きがいや、看護師や医師として成長できる実感があることで離職率が減ると思う。そういった魅力があることによって、ここで働いてみたいという方が附属看護学校の卒業生だけでなく、外部からも来るかと思う。今いるスタッフの働きやすさや、勤務してこの病院は良いなと思えるような体制や研修を受ける仕組みがあれば、医療職の確保につながると思う。今働いている方々も離れず、外からも来てもらえるような仕組みという部分も、プランに記載していただければ良いと思う。

○**藤森研司会長** ご意見ありがたく頂戴した。続いて、地域の保健所長の立場で野上委員から、もし取組で漏れているものがあればご指摘願う。

○**野上慶彦委員** 資料にまとめていただき感謝申し上げる。5月までコロナの2類の対応をしていたということもあるため、最後の7章について話すと、大枠に関しては、これ以上はないかと思う。ここから各論に入った時に、例えばコロナの初期の頃と、今年3月、4月、5月では気仙沼市立病院と本吉病院の役割も変わってきたので、フェーズに応じた

役割分担も盛り込んでいただけたら良いと思う。

○**藤森研司会長** ご意見ありがたく頂戴した。続いて、全市町村の計画案を見られている県の土谷委員から意見をいただきたい。

○**土谷芳和委員** 経営強化プランについては、ご承知のとおり地域医療構想を踏まえて策定するという事になっている。地域医療構想については、医療計画と併せて、今年度に見直しを行っているところであり、そういった視点で見ると、こちらのプラン内容は回復期医療、在宅医療という点で、その機能強化を目指すべき方向として見ている。気仙沼に限られた話ではないが、今後急激な高齢化が見込まれる中で、居宅サービスを含めた介護サービスの提供体制について、供給が間に合うのかという懸念が一つある。また、高齢者の救急搬送も増えていこうと見ており、市立病院の救急機能を圧迫することになると思う。個人的には在宅医療、地域包括ケア病棟に注力するという方向性は市立病院の負担軽減につながるものであり、地域医療構想の考え方にも沿っているのではないかと受け止めている。ある意味、少子高齢化の最前線の地域の現場のプランがすぐに機能するのは難しいかもしれないが、将来的に宮城県のモデルケースになっていただければと期待している。

○**藤森研司会長** ご意見ありがたく頂戴した。続いて、人の問題、財源等、解決が難しい問題がたくさんあると思うが、設置者である気仙沼市の赤川委員から意見をいただきたい。

○**赤川郁夫委員** 市立病院、本吉病院ともに、市民が頼りにしている病院であるので、これからの医療ニーズをしっかりと捉えた中で、経営戦略、経営強化を図っていききたいと思う。当然、市としての負担は出てくるが、気仙沼市民の健康を守っていくというところで、説明を尽くしていくことが必要だと思う。市立病院、本吉病院の機能と役割としては、市民だけでなく、介護の話も出ていたが、諸々関係するところ、市内の開業医の方々も含めての連携をここで位置づけていただきたいと思う。例えば、市の行政で、健康推進事業は健康増進課が行っているが、市立病院、本吉病院の医療スタッフの力を借りて実施している部分が相当あるので、そういったことを今後もより強化していただければと思う。

この計画は令和6年度から9年度の4年間のものであるが、気仙沼市の人口は、皆様にご存知のように、今後も減少し続けることが予測されている。その中で、4年間に区切ることなく、次のこともしっかり視野に入れたい。先程の話の中でも、医療スタッフの確保だけで大変になるという話もあったが、限られた医療資源を最大限活用できるような仕組みを考えていかなければならないと思っているので、よろしくお願ひしたい。

○**藤森研司会長** ご意見ありがたく頂戴した。続いて、齊藤委員から、本吉で行ってきた素晴らしい医療を全市に展開していくという視野の中で意見をいただきたい。

○**齊藤稔哲委員** 地域包括ケア病棟の新設ということで、それぞれが分散してきた医療を統合していくという流れは、持続可能でなおかつ市民のニーズに合わせるという当初の目的に合致すると思う。4ページの「公立病院として担うべき医療の強化・維持」については非常に難しい問題だと思っている。これまでも状況の変化により精査しなければいけないことがあったと思うが、その中でタブーをなくして強化すべき医療は何か、より広域で担っていかなければいけないことは何かというところを、この中で書かざるを得なくなるだろうと思う。そこを具体的に詰めていければ良いと考えている。

また、4ページの「⑥気仙沼市の将来を見据えた医療介護連携のHUB機能」については非常に重要だと思う。今後、この地域、どこの地方でもそうであるが、生活を支える医療がどこの場でも必要である。これは地域から外して集約化することが難しい医療であるため、強化せざるを得ないと思う。生活を支援するというときに、在宅はもちろんそうであるが、施設にとってこの医療が非常に重要なことはご存知のとおりだと思う。ここの支援をより具体的に書いていただくのが良いと思う。これまでの中で感じていることは、在宅よりも施設の方が入退院のハードルを低くせざるを得ない場合が多いだろうということであり、それを実現するための策を練っていただくとありがたい。

もう一つは、それを行うためには、施設看護、顔の見える関係の強化について、具体的な提案として記載できれば良いと思う。Face to Faceの関係づくりも重要だが、我々の地域で行っているICTを利用した情報交換も、より簡便なものが出てきており、この地域で活用していく方策を経営強化プランの中で検討できれば良いと感じている。

○**藤森研司会長** ご意見ありがたく頂戴した。最後に、病院事業管理者の横田委員から意見をいただきたい。

○**横田憲一委員** この経営強化プランに沿って進めていくということで、市立病院と本吉病院の医療再編、特に総合診療機能を全市域で提供することが肝だと思う。森田委員、木村委員、藤森会長からは、市立2病院だけでなく医師会の開業医も含めた医療介護の連携、齊藤委員からは顔の見える関係の構築という話もあり、この計画はまずまず良い計画だと思っているが、掛け声倒れにならないような実効性のある事業計画、数値目標を測りながら医療の提供が行き渡るようにしたいと思う。ここに書いてある様々なことが達成できているか、方策をどのようにしていくか、介護との連携も非常に大事だと思っている。

また、この事業計画に強い推進力を与えるのではないかと思い、最近院内で話し合っているのが、地域医療連携推進法人の立ち上げについてである。成功事例としては日本海総合病院等があるが、宮城県にはそういった取組がない。そのような部分も含めて、この計画を実行性のあるものにするため、院内で話し合いをしているところである。

○**藤森研司会長** ご意見ありがたく頂戴した。各委員から意見をいただいたが、事務局から何かあるか。

○事務局（菅原正浩） 様々な意見をいただき感謝申し上げます。初めに出た木村委員、齊藤委員の介護と医療の顔の見える関係等について、連携を深めることは非常に重要だと思っている。そのような中で、以前は市立病院と介護福祉事業所の間で、意見交換会等を一つの会場に集まり様々行っていたが、新型コロナの流行により実施出来ずにいたので、なんとか再開し、その上で、顔の見える関係を作っていきたいと考えている。なお、これは森田先生の協力もいただきながら、ケアマネジャーの会議の中に当院の職員も参加し、様々なこちらの悩みと、ケアマネジャーが抱える病院に対する悩み等を共有していたところであり、そのようなことも今後進めていきたいと考えている。双方の考えを相互理解することは非常に大切だと思う。

また、公立病院として担うべき機能ということで、小児、周産期、人材の確保の話があったが、これは病院事業にとって非常に大きな課題であると思う。人材の確保については、私も病院に来てから思ったが、本当に人がいないと回らないというのが本音である。DXをいくら推進しても、今のところ出来ることには限度があるので、人手を確保することについて、赤川委員が話したとおり効率的に活用していくということも考えていきたいと思う。なお、周産期医療等については、現在、子供が少なくなってきた中で、既に様々な課題が出ており、計画を作る途中、作った後でも、様々な状況の変化があると考えられる。それについては、適宜適切に、状況の変化に応じて対応して参りたい。

最後に、横田委員が話した地域医療連携推進法人については、横田先生が医療、介護、地域包括ケアを具体的に進めるにはどのようなものかという話の中で、今それを研究しているところである。それについてどのような具体的な対応ができるかはまだ分からないが、様々なものを勉強しながら考えて参りたい。

最後に確認であるが、経営強化プランについては、今回示した資料2の内容に肉付けをする形で進めてよろしいか。

○審議員全員 良い。

○事務局（菅原正浩） それでは、そのように作業を進めさせていただく。

## 6 その他

○藤森研司会長 その他意見はあるか。

○森田潔委員 地域医療連携推進法人について検討中とのことであるが、1年程前に、その話が別のところからもあった。横田委員の話にあった日本海総合病院の好事例があるが、なかなかハードルが高いというところがある。それが出来れば良いとは感じているので、是非検討を進めていただきたいと思う。

また、顔の見える関係という意味では、先程の話にあった新型コロナ流行前に開催されていた市立病院との意見交換会は大変好評だった。医療関係者の中では会うことがあるが、介護関係者が医師に会うには勇気がいると思う。例えば、仕事絡みだと医師に叱られ

るのではないかということがあるが、意見交換会があれば、その医師が実は良い人だということが分かったりすることもある。そういった意味では、介護事業者や様々な方が集うことは良いことであるため、新型コロナの状況を見ながら、是非再開していただきたいと思う。横田院長にも講話いただいたが、今年も気仙沼地区地域医療委員会による地域包括ケアフォーラムが11月頃に予定されている。介護の方が比較的多いが、医療の方も入っており、そのようなフォーラムを引き続き実施していきたい。

また、ケアマネジャーとの連携については、毎月Webで役員会を行っている。医療のことや、複雑、多岐にわたる介護保険制度を教えていただく機会にもなり、シームレスな連携をするためには、お互いのことを知ることがとても重要であるため、Webの役員会に参加いただきたい。総合患者支援センターの方も参加しており、同センターは実質的に市立病院の窓口になるので、窓口の印象は非常に重要であることから、そのところも一緒に繋いでいけると良いと思う。お互い顔の見える関係というところを、新型コロナの状況にもよるが、注意しながら再開していければと思う。

○**藤森研司会長** ご意見ありがたく頂戴した。医療介護の連携で、利用者が一定程度いる中で、これから働き手がどんどん減っていく状況でも、これをやらなければいけないと思う。気仙沼市はそれが出来るちょうど良い規模感の街であり、そうしなければいけない背水の陣でもあると思う。宮城県のモデルケースとして、頑張っていたいただきたい。またそれが出来るだけの各界のリーダーがいると思う。仙台市ではとても難しいと思うので、是非お願いしたい。それでは事務局にお返しする。

○**司会（熊谷岳豊）** 今後の予定としては、今年度、審議会を少なくとも2回は開催したいと思う。次回は7月下旬を予定しており、案件としては、5月29日付で諮問された令和4年度気仙沼市病院事業の取組に対する点検・評価を考えている。進捗状況によっては、強化プランについても盛り込みたいと思うが、まずは点検・評価を優先案件として審議いただきたい。3回目以降は引き続き経営強化プランの策定について、最終答申の提出に向けて審議いただきたい。開催時期は8月以降を予定しているが、その都度日程調整の上、案内するのでよろしく願います。

## 7 閉会

○**司会（熊谷岳豊）** 以上で、本日の審議会を終了する。

閉会 午後7時